

本時のねらい

俳句の五・七・五（十七音）に使われている表現技法に着目し、描かれている情景や心情をとらえ、俳句を読み味わう。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

授業支援ソフト（Google Classroom）のドライブ上にある俳句の鑑賞文スライドを互いに見て、コメントをつける活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・授業支援ソフト（Google Classroom）
- ・プレゼンテーションソフト（Google スライド）
- ・フォーム作成ソフト（Google フォーム）
- ・大型ディスプレイ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を音読する。 ○前時のふりかえりと本時の注意を確認する。 (作成にあたっての工夫のふりかえりとコメントの記述など) ○コメントの書き方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞かるときはタブレット PC ではなく説明者を見るように指示をする。 ・コメントを書く時にはどの表現がよかったかや、鑑賞文を読んだの気づきや浮かんだ情景などを具体的に書くように指示をする。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの鑑賞文スライドを見て、コメントをつける。 ・まずは同じ班の人全員にコメントをつける。 ↓ ・同じ班以外の人にも時間の限りコメントをつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を把握しながら支援を行う。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○フォーム作成ソフト(Google フォーム)を使ったふりかえりと投票をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりは、教室の前方に置いた大型ディスプレイに提示し、リアルタイムでクラスメイトのふりかえりが見られるようにする。 ・次回にこのクラスの最優秀スライドを紹介することを予告する。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：お互いのスライドを見てコメントを書いている場面

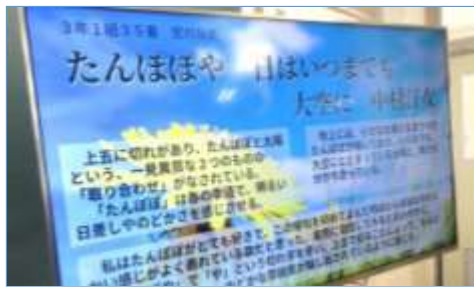


写真2：説明や見本を大型ディスプレイに表示している場面



写真3：各自主体的にクラスメイトのスライドを見て、コメントをつけている場面

児童生徒の反応や変容

- ・他者の鑑賞文を通して、他の作品やウェブ上の意見にふれることによって、これまで俳句に興味なかった生徒から「他の考えをたくさん知れたことで自分の視野を広めることができたように感じる。」という声がかかれ、俳句に対する興味関心を高め、俳句の面白さを実感できた。
- ・自分の鑑賞文がクラスメイトから評価されることで、「コメントがもらえるのも、自分の感情をコメントをくれた人と共有できていてうれしかった」という感想が出され、自分自身の表現や工夫を見直し、言葉を磨く経験につながった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・1人1台タブレット PC を活用することで、コロナ禍でもグループ交流ができるのが大きな利点です。ウェブ上での言葉のやりとりは、子どもたちにとってもすれば簡単にもなりがちですが、事前にコメントを書く時の注意点を伝えることで、クラスメイトの工夫や表現技法を具体的にとらえたコメントをつけるようになりました。
- ・授業支援ソフト（Google Classroom）を活用して、多くの作品にふれクラスメイトの工夫に気がつくことを通じて、俳句の表現技法についての知識が深まりました。また、自分なりの読み取りとクラスメイトの読み取りを比べることによって、俳句の魅力を実感することができました。